

教科等研究会（中学校国語部会） 令和3年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

確かな学力を育む「分かる・できる」「楽しい」国語科授業づくり
～言葉の力を育み自ら学び続ける生徒の育成をめざして～

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期日	人数	場所	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者
6/7	20	嘉島中	8/6 (開催中止)	甲佐中		10/28	御船中	反後 彰一朗 教諭	1/27	御船中 (開催中止)	近藤 修平 教諭

3 研究の概要

(1) 研究の内容

上益城郡教科等研究会全体研究テーマ「児童生徒一人ひとりが輝く『分かる・できる』『楽しい』授業づくり」を受け、国語部会では令和3年度の研究テーマを「確かな学力を育む『分かる・できる』『楽しい』国語科授業づくり～言葉の力を育み自ら学び続ける生徒の育成をめざして～」と設定した。これは、昨年度九州大会に向け熊本市内と協力して行ってきた「社会生活につながる国語科教育～言葉を駆使しながら自ら学び続ける生徒の育成を目指して～」を引き継いだものでもある。

①組織づくり

第1回目研究会では、昨年度の実践を踏まえつつ研究テーマの設定を行った。さらに部会を「1年生部会」と「2年生部会」に分け担当学年の教材研究ができるようにし、各自の授業力向上を目指すものとした。

②授業研究会

本来ならば、8月の夏期研修では、新学習指導要領に即した授業づくりの研修、1月には、研究授業を行う予定であったが、感染症拡大防止の観点から中止となり、6月の組織づくりと10月の研究授業のみとなった。

10月の研究授業は「御船中学校区『学力向上』研究指定事業研究発表会」と兼ねることになった。この研究授業の教材は、二つの説明文を読み比べ、論の進め方について考えるものである。ここでは、50分の授業で二つの文章の論の進め方や表現についてそれぞれの特徴を個人で捉え、意見文に活かせる工夫を説明することが「めあて」であった。具体的な特徴は、「文章の構成」、「根拠の示し方」、「文末表現」、「まとまりの関係」を本文から捉えることができることである。



この点に関して、熊本県立教育センターの志賀先生からもご助言をいただきながら教材研究を進めていった。授業と家庭学習をリンクさせたり、ジグソー法を用いて生徒と一人一人が考える授業となった。

①成果

- ・本単元で身につけられる力が明確。
- ・単元の大きな流れを意識した学習構想案であった。
- ・毎時間の振り返りが行われ、生徒自身が可視化できていた。
- ・ジグソー法を用いることで生徒一人一人が考え持つことができた。
- ・家庭学習が有効であった。

②課題

- ・既存の知識と系統づけて考えることが大切。
- ・生徒が考える時間を確保し、教師が授業をコントロールすることが大切。
- ・生徒の発言を拾い、つなぎ、広げることが大切。

4 実践事例

(1) 2年生部会（東京書籍2年「黄金の扇風機／サハラ砂漠の茶会」）

①授業者自評から

- ・生徒が論の進め方について自分の意見を持つことができていた。
- ・ワークシートは家庭学習としたため、中心的な活動にすぐに入ることができた。
- ・ジグソー法で自分の意見を持ち、積極的に班活動に取り組んでいた。
- ・生徒の意見が偏ってしまった。

②質疑応答

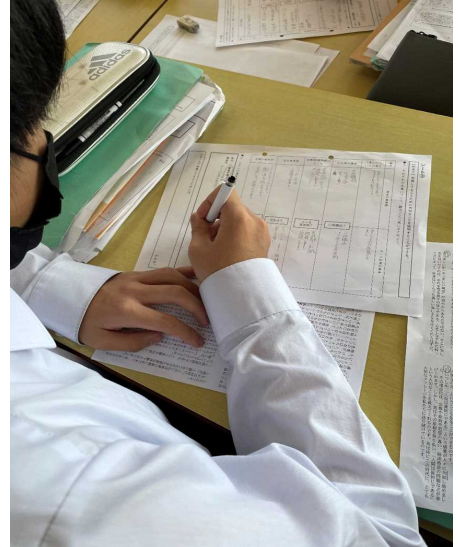
- ・最初と最後に意見文を書かせる展開だが、最後書かせるポイントはどのように指導する予定か。
→二つの説明文で用いているので、相手を納得させる工夫のどのような点を真似すればいいかという形で指導していきたい。さらに意見文の「美について」の視覚的アプローチを行っていく予定である。
- ・教材研究において意識されることは何か。
→シンプルな発問を心がけている。生徒にどのような言葉で用いればよいかという意識を持ち教材研究をおこなっている。
- ・振り返りの指導をどのようにおこなっているか。
→自分の変化に気付くことが大切と伝えている。また、振り返りを発表させ、どのように書いたらよいかを示している。

③研究協議から

- ・振り返りを共有できていた。
- ・落ち着いた授業態度で教師と生徒の信頼関係ができていた。
- ・丁寧な授業であった。
- ・家庭学習で書いてきたことが生きていた。

(3) まとめ

知識は共感させることが大切。そのため生徒の発言のギャップをとらえ、つなぎ、ひろげ、価値付けをすることが大切であるという助言をいただいた。



2年生部会指導案

(1) 目標

- 観点ごとに2つの文章を読み比べることを通して、それぞれの論の進め方について自分の意見を持つことができる。

(2) 単元構想案

第2学年1組 国語科 学習構想案

期日 令和3年10月28日(木) 第5校時

場所 2年1組教室

指導者 教諭 反後 彰一郎

1 単元構想

単元名	黄金の扇風機／サハラ砂漠の茶会	
単元の目標	(1)文章を読み比べて、論の進め方について考えることができる。 (2)自分の知識や体験と、自分の考えを結び付けて考え、考えを深めることができる。 (3)言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。	
単元の評価規準	知識・技能	主体的に学習に取り組む態度
	①(1)エ (知識) 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ②(2)ア (技能) 考えと根拠、具体と抽象など情報と情報の関係を読み取っている。	①「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較し、文章の構成や論理の展開について考えている。 ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。
単元終了時の生徒の姿(単元のゴールの姿・期待される姿)		
「筆者の主張とその根拠」「具体例の用い方」「文章構成」「文章表現」などの観点から、二つの文章の論の進め方や表現についての共通点や相違点を見つけることができる生徒。また、物事を複数の視点で捉えていくことや、自分の知識や体験に照らしながら情報を判断・評価し、自らの考えを形成していくことができる生徒。		
単元を通じた課題(単元の中心的な課題)		本単元で働かせる見方・考え方
「美」についての自分の考えを、自分の知識や体験と結び付けて書くことができる。		二つの文章の論の進め方や表現から、共通点や相違点を捉え、自分の知識や経験と結び付けながら、自分の考えを広げたり深めたりしている。
指導計画と評価計画(5時間取扱い 本時3/5)		
次	時	学習活動
2	1	○二つの本文を通読し、学習目標や単元計画を確認する。 ○漢字や語句の読みや意味を確認する。
	2	○二つの文章の内容を読み取り、それぞれの筆者がどのような根拠からどのような主張をしているのかを表にまとめる。
	3(本時)	○観点ごとに二つの文章を読み比べ、それぞれの論の進め方について、自分の意見をもつ。
	4	○二つの文章の内容やその述べ方を踏まえて、「美」についての自分の考えを、条件に従って書く。
3	5	○友達の見解文を読み合い、感想を交流する。 ○学習の振り返りを行い、学んだことを自分の言葉でまとめる。
		【知・技】(ワークシート) ①★漢字の読みや語句の使い方等を調べ、正しく理解している。 【思・判・表】(ワークシート) ①★本文の内容を正しく読み取り、筆者の主張や、その主張の根拠を表にまとめている。 【知・技】(ワークシート) ②★考えと根拠、具体と抽象などを区別することができる。 【思・判・表】(ワークシート) ①★観点を明確にして文章を比較し、文章の構成や論理の展開について考えている。 【思・判・表】(ワークシート) ②★文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。 【主】(観察) ①★進んで文章を読み比べ、学習課題に沿って、自分の知識や経験をもとに自分の考えを書こうとしている。 【思・判・表】(ワークシート、発表) ②★互いの文章を読み合うことで、自分の考えを深めたり広げたりしている。 【知・技】(ワークシート) ①★抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、語感を磨き語彙を豊かにしている。

(3) 展開

4 本時の学習

(1) 目標 観点ごとに二つの文章を読み比べることを通して、それぞれの論の進め方について自分の意見をもつことができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動	○指導上の留意事項 (・活動の目的、方法・SMARTな実践)
へき	10分	1 前時の学習を振り返る。	○「問い」を生み出す手立て等 ・単元を通した課題（「美」についての自分の考えを、自分の知識や体験と結び付けて書くことができる。）や筆者の主張と根拠を確認し、読者に共感してもらうための方法を本文から見つけていくという目的を共有する。 ○課題解決に向けた見通しを持つ手立て ・それぞれの文章を、いくつかの観点で比べることで、共感してもらう工夫が見えてくることを確認する。
		2 本時のめあてを確認する。	
【本時の目標（めあて）】共感してもらうために大切なことを説明することができる。			
しらべる	20分	3 二つの文章の論の進め方や表現について、それぞれの特徴を個人で捉える。 〈文章の構成〉三部構成⇔二部構成 〈論の進め方〉 新たな考えを示す⇔自分の主張を強める 〈根拠の示し方〉どちらも体験が中心 体験のみ⇔体験・知識 〈文章表現〉常体⇔敬体 慎重⇔断定	○見方・考え方を働かせて課題解決に向かう手立て等 ・二つの文を図や表にまとめて比較させる。 ・比較する観点を提示する。 ○個に応じた支援 ・教師やとなりの生徒が助言を行う。 ○到達していない生徒への手立て ・始めや途中で数人の生徒に発表させ、どんなことに注目していくべきかの共通理解を図る。 ・キーワードや文末表現に着目しながら比較していくよう声をかける。 ○ジグソー法を用いて班ごとの意見を交流し、観点ごとの特徴をまとめさせる。
		4 班や全体で意見を交流し、それぞれの文章の特徴をまとめる。	
【学習課題】「美」についての意見文のうち、どちらの意見文に共感できるか、理由も併せて具体的に説明しよう。			
みにつける	15分	5 それぞれの文章の特徴をもとに、どちらの文章に共感できるか具体的に説明する。 【期待される学びの姿】 複数の観点にもとづいて比較した結果をもとに、文章の構成や、論理の展開についての自分の考えを、具体的に説明している姿。	○課題解決に粘り強く取り組もうとするための手立て等 ・二つの文章の論の進め方を比べ、その効果について考えさせることで、どちらに共感できるかを考えられるようにする。 ・前回のシート等も振り返らせ、内容面での説得力も考えるよう促す。 ・自分の体験や知識と重ねて考えるように促す。
		【具体の評価規準】 思考・判断・表現 C(1)E 方法：ワークシート 「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較し、文章の構成や論理の展開について考えたことを、具体的に評価し、説明している。	
たしかめる	5分	6 本時の学習を振り返る。	○自分はどちらの意見文に共感したかを友達と交流する。 【まとめ】共感してもらうためには○○(三部構成で説明すること等)が大切。
		7 友達同士で感想を交流しあい、次時の確認を行う。	
○本時の感想を発表させる。 ○次時の確認を行う。			